

令和7年9月月例記者会見

〔01_令和6年度決算のポイント〕

市長 一般会計については、実質収支が15億3,600万円の黒字となりました。歳入においては、国庫支出金、地方特例交付金、市税、県税交付金、普通交付税、市債等の増により増収となり、歳出においても、新型コロナウイルス感染症医療体制整備事業の縮小等により減少する一方で、低所得世帯等に対する給付事業や清掃センター基幹的設備改良事業、社会保障関係費の増により、全体としては増加しています。また、特別会計については、全ての会計で黒字あるいは収支均衡となりました。

財政指標については、経常収支比率が、人件費や物件費が増加したものの市税等の増により一般財源が増加したため88.0%と2.2ポイント改善しました。実質公債費比率も1.9%から1.6%に改善しています。財政状況としては、概ね健全な状況で推移しています。

【質疑応答】なし

〔02_次世代の住宅都市を共につくる11職種を募集〕

市長 毎年、エン・ジャパン(株)と連携した社会人採用を行っています。今年は、部・次長級の「危機管理監」を公募することが大きなポイントです。また、全国的な動きになっている公民連携、民間事業者の力を活用してまちづくりを進め加速化させるための人材「公民連携推進担当」、DXを推進する「事務職(DX推進担当)」、人事政策の根幹になる人材育成基本方針の抜本的な見直しのため人事のプロフェッショナル「人事施策担当」など多様な職種を募集します。

【質疑応答】なし

〔03_いつでも・どこでも・簡単に市政へご意見・ご提案 デジタルききみみポストを開始します〕

市長 以前、市役所等公共施設にききみみポストという目安箱のようなものを置いて、市民のご意見を広くいただいていたのですが、投函数の減少や投函から回収までのタイムラグなどを踏まえ、一旦廃止しました。今回、そうした課題を解決し、デジタルの力を活用して広くご意見をいただく機会をつくるため、デジタルききみみポストを10月1日からスタートします。

令和7年度は、タウンミーティング、いこま考座など、かなり幅広くかつ包括的に様々な広聴の取組を進めています。「e-広聴プロジェクト」にデジタルききみみポストを位置づけ、広聴の一つの柱としてしっかりと活用していきたいと思っています。いただいた投稿は、担当課と共有し、今後の政策立案や改善等に活用します。原則、市から直接回答はしませんが、回答が必要な場合は、既存の問合せフォームがありますので、そちらをご利用いただくことになります。非常に簡単に投稿でき、投稿していただいた方に、まちのコイン「くるり」を50くるりプレゼントします。

【質疑応答】

記者 今回、デジタルで復活ということですが、市政にどう生かしていきたいですか。

市長 生駒市では、ワークショップやセミナーの実施、私も地域に出かけるなど、市民の様々なご意見を聴いて、まちづくりに生かしてきました。しかし、コロナ禍でそのような機会が持てなかった時期

を経て、また、デジタルの活用がかなり進んできたこともあり、令和7年度は、原点に戻り市民の声をしっかりと聞き、まちづくりに生かすことをもう一度きっちりやろうと、取り組んできました。その具体的なものが、タウンミーティングやいこま考座です。ただ、実地でリアルに実施するだけでは、そこに来られる方はどうしても限定的になってしまいます。そこで、そのようなアナログ、リアルな広聴の場とデジタルでより広く手軽にご意見をいただくような広聴の場の両方が必要だと議論しました。

今回、デジタルききみみポストという形で広く意見を聞く「e-広聴プロジェクト」とタウンミーティング、いこま考座などの「まち知るプロジェクト」を組み合わせることで、より良い広聴ができるのではないかと考えています。

【04_地域課題（農業、交通安全、不登校支援）を共に解決できる事業者を募集】

市長 庁内から募集した農業、交通安全、不登校支援の3つの地域課題を民間事業者とともに解決するため、実証実験等の実施により協働して解決に取り組む事業者を募集します。募集にあたり、課題担当課とのマッチングのためのピッチイベントに加え、独自の取組として事業者には課題の現場を見ていただく「現場視察会」を開催します。このようなピッチイベントと現場視察会を組み合わせた公民連携の取組はかなり珍しく、関西エリアでは例がないと聞いています。

ピッチイベントは、10月8日にグラングリーン大阪で実施します。ここで委託事業者が主催する公民連携交流イベント「XKANSAI(クロスカンサイ)3」において、それぞれの担当職員が課題についてリバースピーチ（課題のプレゼンテーション）を実施し、それに興味を持った事業者とマッチングをします。10月22日には、地域課題の現場を見ていただくツアー、現場視察会を開催します。

3つの課題のうち、農業については、鳥獣被害の増加、農機具の確保にかかる費用負担など、新規就農希望者や継続営農される方の経済的・精神的負担の増大に対し、農機具のマッチング・シェアリングなどのサービス開発などに本市と協働で取り組むなど、どのように新しい都市近郊型農業のモデルを作っていくのかといったことも民間事業者と一緒に考えます。

交通安全については、生駒市は非常に交通事故の少ないまちで、交通事故死亡者数0が続いていましたが、残念ながら最近は何名かの方が交通事故で死亡されています。交通安全という意味では課題感も出てきています。春秋の交通安全運動と合わせて交通安全意識の向上に対してどのような取組ができるのかを民間事業者の方と議論をしていきます。

不登校支援については、生駒市では、「校内サポートルーム」や「のびのび・いきいきほっとルーム」など学びの多様化を進めています。「校内サポートルーム」は、学校には行けるが教室まで行くのは難しい児童生徒が安心して過ごせるような快適な空間です。来年度はさらに全校に広げていく議論もしています。このような空間（ハード）・コンテンツ（ソフト）づくりを事業者とともに設計・実装していきます。

生駒市のこれまでの公民連携の取組としては、協創対話窓口を開設し、フリー型や、テーマを設定するテーマ型で提案を募集していますが、テーマ型に提案が集まらないということもあり、ホームページに掲載するだけでなく、大阪に出ていき事業者さんの前で職員が思いを伝えるような、より一歩踏み込んだマッチングをしっかりとやっていきたいと思っています。

【 質疑応答 】

記者 現地視察会の場所は、具体的にどのあたりを想定されていますか。

担当課 農業に関しては、イノシシの檻などが設置されているところを、また、サポートルームに関しては、同様の取組をしている「のびのびほっとルーム（生駒南第二小学校）」を見学する予定です。

〔05_10月19日「防災マルシェ」＆「防災講演会」を開催〕

市長 今年度は総合防災訓練を開催する年で、帰宅困難者訓練や避難所宿泊訓練などいろんな取組を考えています。今回、帰宅困難者訓練に続く第2弾として生駒駅前で2つのイベントを行います。

一つ目は、防災マルシェで、10月19日の10時から16時までベルテラスのベルステージで行います。内容は、防災のクイズラリーや防災グッズの展示・販売を中心に、様々な防災に関するブースを出して、たくさんの方に見ていただきたいと思います。生駒市や他の自治体でも、防災に関する様々な協定を事業者と締結しています。協定を結んでいる事業者の皆さんに今回のマルシェのような場でブースを出していただいて、サービスの提供や商品を買っていただいたり、市と一緒に取組んでいる内容について、市民の皆さんに発表していただいたりすることで、啓発にもなります。また、協定を結んでいる事業者と定期的に繋がりを持ち、目に見える形で、協定に基づく取組を平時からやっておくことで、災害が起きたとき、顔の見える関係に基づいてご支援をいただけるという意味もあります。

もう一つは防災講演会ということで、気象予報士の正木明さんに自助・互助・協働のまちづくりということで気候の話なんかも含めてお話をさせていただきます。来ていただいた方には、オリジナルの非常食や「まちのコインくるり」をプレゼントしたり、抽選で正木さんのサインをもらえます。

今年度の総合防災訓練全体の取組としては、実施済みの帰宅困難者訓練、今回の防災マルシェ＆防災講演会、その後避難所宿泊訓練で、地域の避難所を単位とした防災力の向上をしっかりとやっていきます。そして、最後に自治連合会・自主防災会訓練を地区自治連合会単位で実施し、この四つを取組の柱とします。

【質疑応答】

記者 昨年、東生駒のトンネル近くでの崩落事故の際に避難所を開設された経験から、何を学び、今後どのように生かしますか。

市長 災害により、1日から2日間避難する場合と、1週間やそれ以上になる場合では、求められるものは、かなり変わってくるということを学びました。具体的には、洗濯機や冷蔵庫みたいなものが避難所に欲しいという話などもありましたが、大規模地震で、何万人単位で避難される場合は全員分準備できずそういったこと、また、土砂災害、大規模地震、それぞれのケースごとにシミュレーションをする必要があることも学びました。この学びを今回の避難所宿泊訓練で生かしている部分もありますが、今回、定員250人とかなりの人数で避難所宿泊訓練をすることで、大人数で宿泊するときの意見・要望が、たくさんいただけたと思います。

（その他の質問）

記者 開庁時間が短縮されましたが、市民、職員の反応はいかがですか。

市長 たくさんの方の苦情にまではなっていないと聞いていますが、一定、時間変更したので困るというようなお声はいただいています。それについては、コンビニ交付やデジタル申請、来庁予約なども説明し、ご理解をいただくようにしています。

（了）